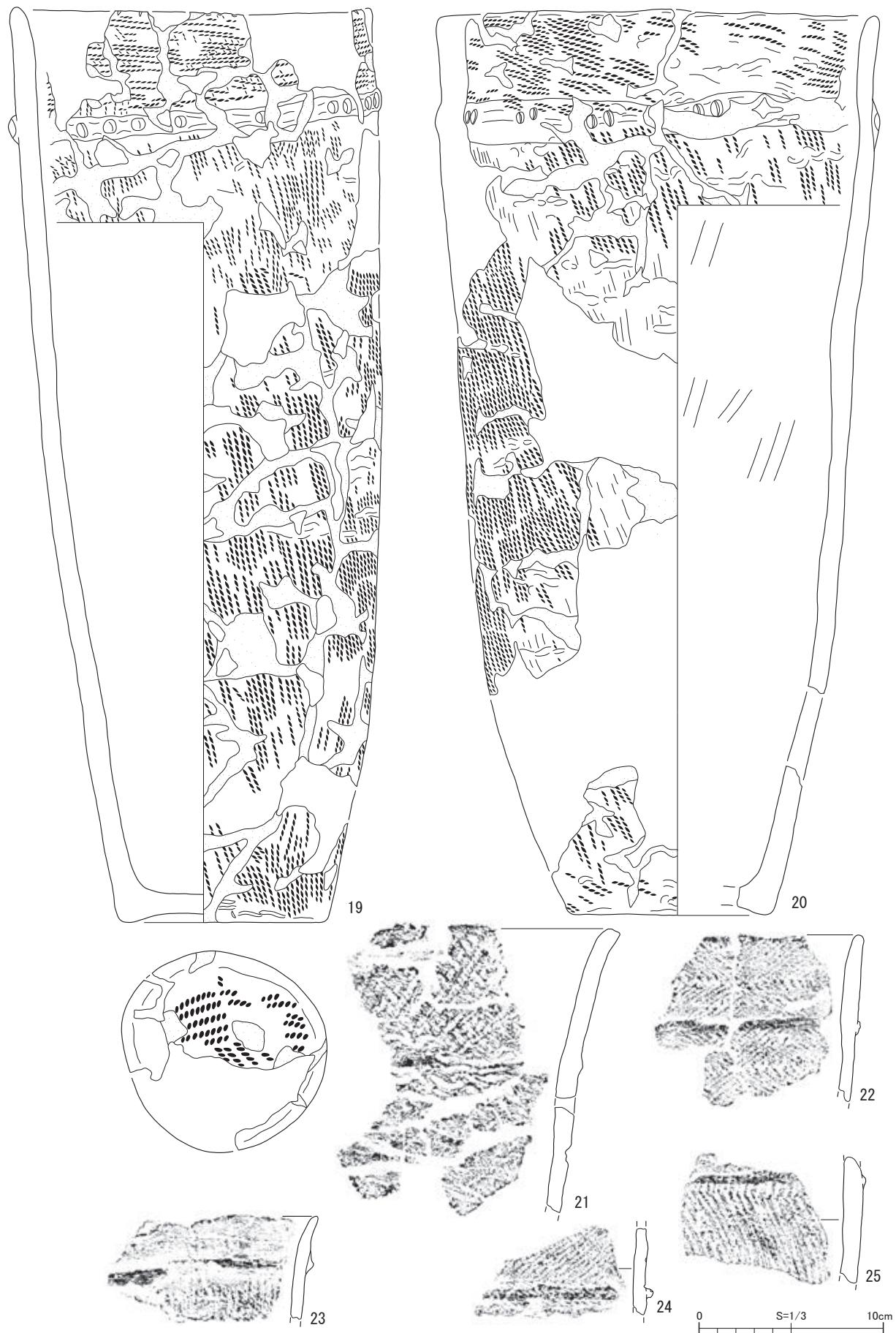




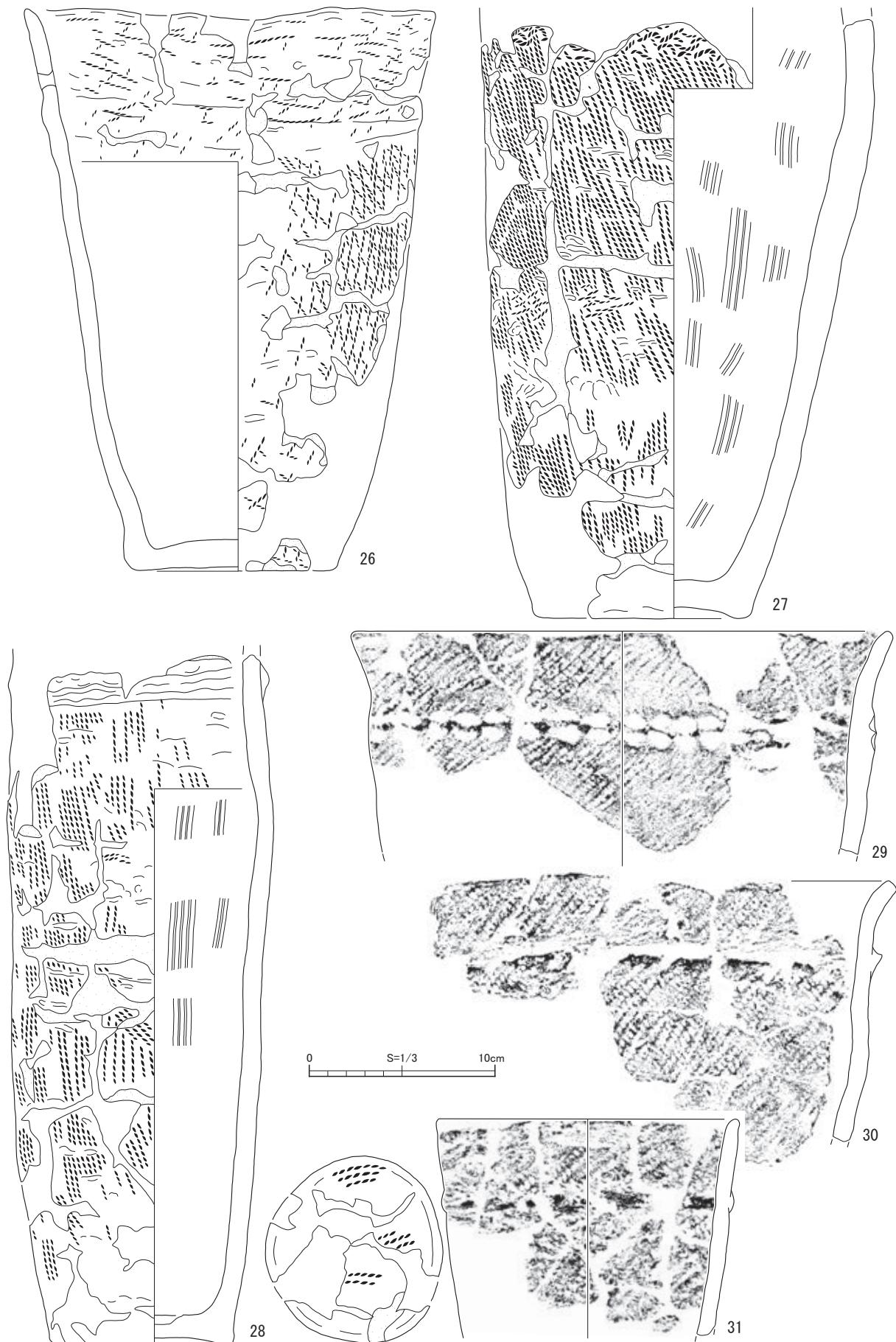
図VI-275 C3 地区包含層出土土器 (3)



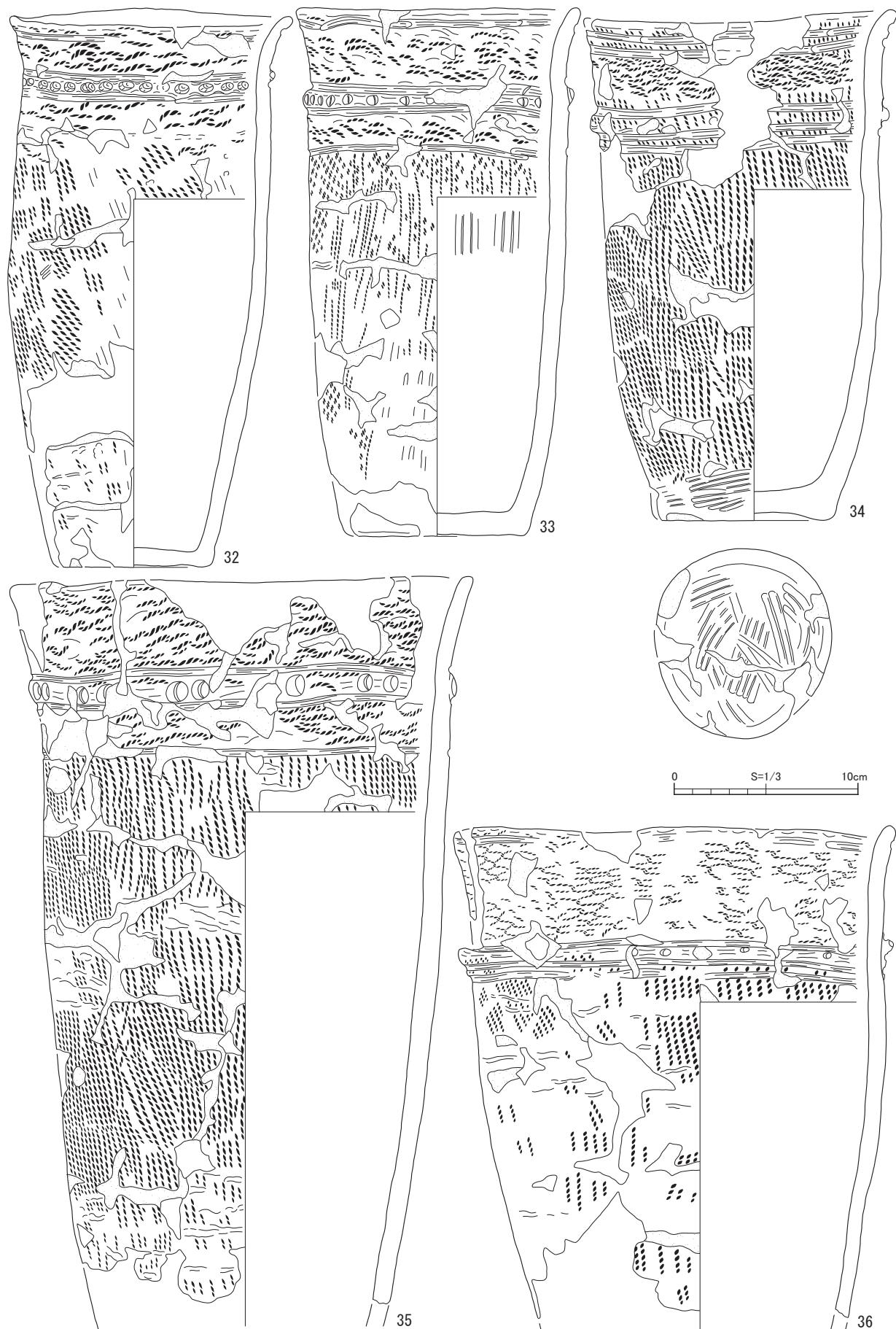
図VI-276 C3地区包含層出土土器(4)



図VI-277 C3 地区包含層出土土器 (5)



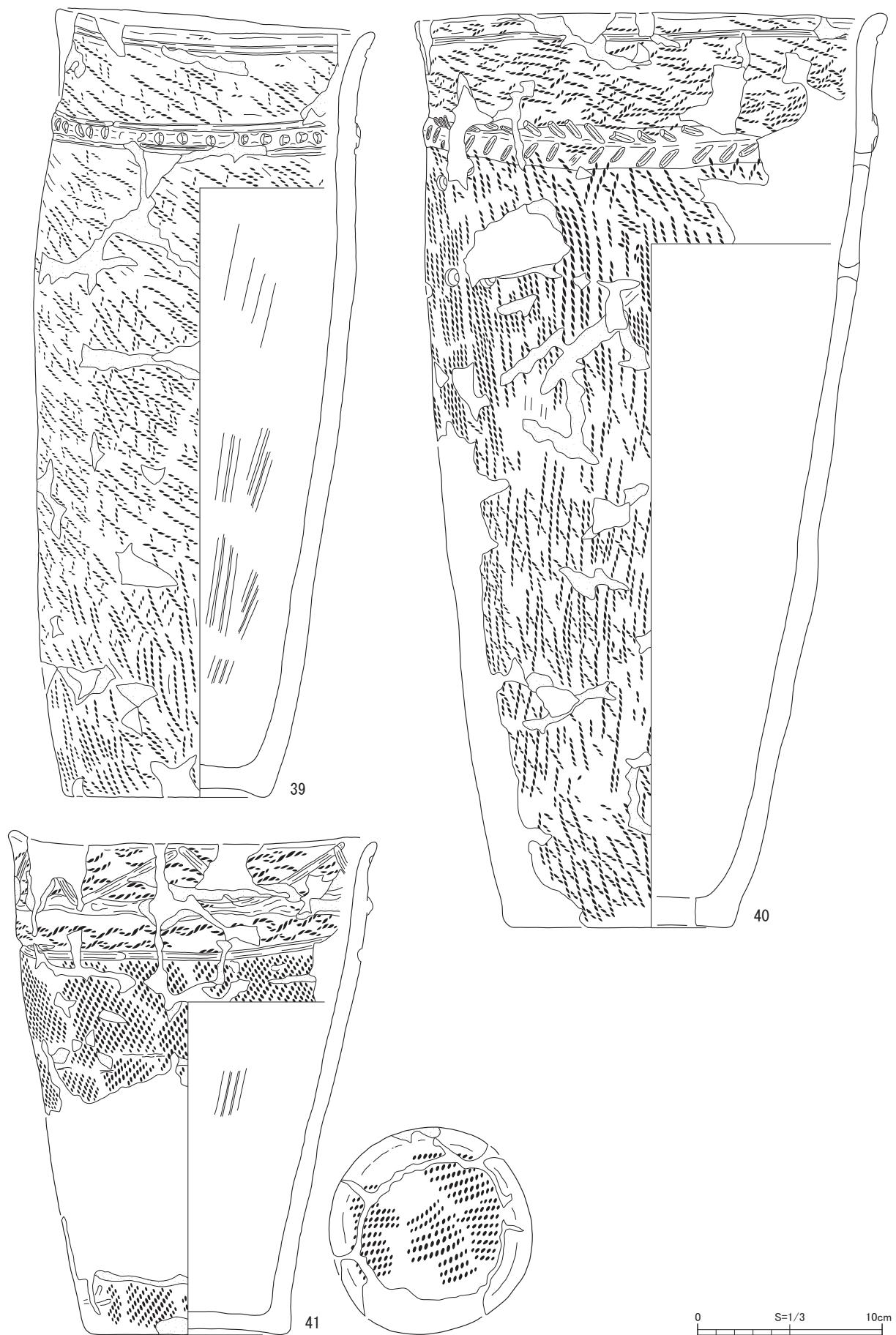
図VI-278 C3地区包含層出土土器(6)



図VI-279 C3 地区包含層出土土器 (7)



図VI-280 C3 地区包含層出土土器 (8)



図VI-281 C3 地区包含層出土土器 (9)



図VI-282 C3 地区包含層出土土器 (10)

部分で異なるもの（33）があり、底部付近のみ貝殻条痕のあるもの（34）もある。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと同様である。

44～50は口縁部区画帶が沈線のみのもの。2本が主体（44～47・49）で、3本（48）、条痕状の幅広のもの（50）がある。沈線は口唇直下に施されるもの（45・47）があり、49は沈線間に円形刺突、45は沈線の縦の区画とその交点に円形刺突、46には低い波状口縁の波頂部下に2条の縄線（左側縁で観察される）が加えられる。口縁部文様は単軸絡条体1（44・50）・5（49）・6（46）類、LR斜行縄文（45）、不整綾絡文（47・48）がある。胴部文様は単軸絡条体1類（44～47・50）が多く、単軸絡条体5（48・49）・6類（46）があり、胴部上下で異なるもの（46）がある。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似するが、45・47の底部はややすぼまり、底角は張り出さない。

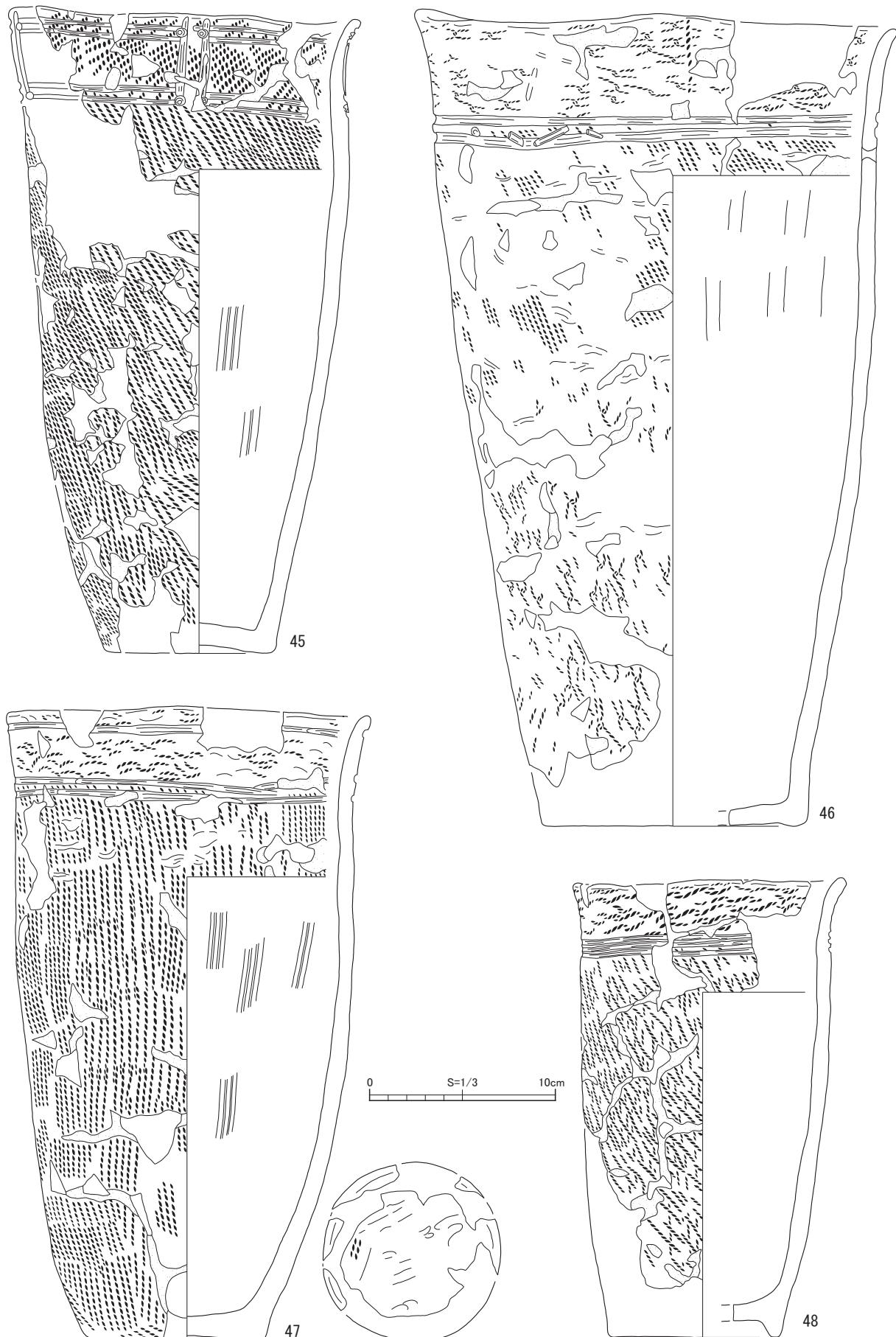
51～63は口縁部区画帶や縦の区画が縄線のもの。口縁部区画帶は1条（51・52・54・57）、2条（53・58・59・63）、縄線1条+沈線1条（61）があり、縦の区画は2条1組（55・56・60・61）である。やや高い波状口縁（54・61・62）があり、61は波頂部から2本1組の縄線が垂下し、口唇に沿って斜めに同様に2本1組の縄線が施文される。62・63は撫りの異なる縄線がセットになる。口縁部文様は51が整然とした綾絡文、52が単軸絡条体3類？、53が結束第1種羽状縄文、54・57・58がLR斜行縄文、55・56が単軸絡条体5類、60が直前段反撫RRL、61～63が直前段反撫LLRである。胴部文様は単軸絡条体1類（51・53～56・58）、直前段反撫RRL（59）・LLR（52・61・63）、斜行縄文LR（57）、不明（60・62）がある。器形は底部が張り出さずにすぼまり、胴部は斜めにやや膨らみを持って立ち上がり、口縁部は滑らかに外反する。底面は平底やわずかな凹底が多く、底面の施文が無い。内面は貝殻条痕が見られず、丁寧に調整されるものがある。

64～77・79～83・85～88は口縁部文様帶があるが、区画帶の無いもの。78は上下で地文の異なるもの。84は口縁部に無文帶がある。78～84は直線的に斜めに立ち上がるバケツ形の器形。口縁部文様は64～70・79は不整綾絡文、71～75は単軸絡条体1類、76・80～83は貝殻条痕文、77は口唇直下のみ単軸絡条体1類、85は原体不明、86はLR斜行縄文、87・88は縄線文である。72・74の口縁部文様帶下部には原体端部の結節状の文様があり、区画帶のように見える。胴部文様は単軸絡条体1類（65・66・68・69・71～77・80・85～88）が多く、RLR縄文（64・67）、LR縄文（65・66・84）、RL縄文（78）、多軸絡条体（70・78・81～83）、異段合撫（LR・RのR撫り）縄文（79）である。胴部が上下で異なるもの（65・78）、部分で異なるもの（66）、帶状の不整綾絡文で上下に区画されるもの（68）がある。バケツ形は口縁部に貝殻条痕文、胴部に多軸絡条体、内面に貝殻条痕による調整痕が目立つ。器形は筒形とバケツ形があり、器形以外の底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似する。

89～94は口縁部文様帶が無く、单一の地文のみのもの。文様は単軸絡条体1（89）・5類（94）、LR縄文（90・91）、RLR縄文（93）、異段合撫（LR・RのR撫り）縄文（92）と多様である。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似する。

95～104は胴部から底部片。文様は95～98・100・102・103が単軸絡条体1類、99が単軸絡条体1類を挟んで上下に多軸絡条体、101がLRL縄文、104が原体不明、105がLLR縄文。器形・底部の特徴は隆帯のみと類似する。

106は円筒下層d1式。胴部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかにくびれて外反する。口縁部には縄線で上下の区画とその間に斜めの模様が施文され、口唇外面にはLR斜行縄文が施される。胴部は横方向の貝殻条痕を下地に、横環する結束第2種羽状縄文と縦走するLとRの2本1組の組紐状縄線に見える単軸絡条体1類が多段に施文される。内面はよく磨かれる。107は円筒下層d1式。口縁部にLとRの縄線が交互に押捺され、その下位には結束第1種羽状縄文と縦走する自縄自巻縄文



図VI-283 C3地区包含層出土土器(11)



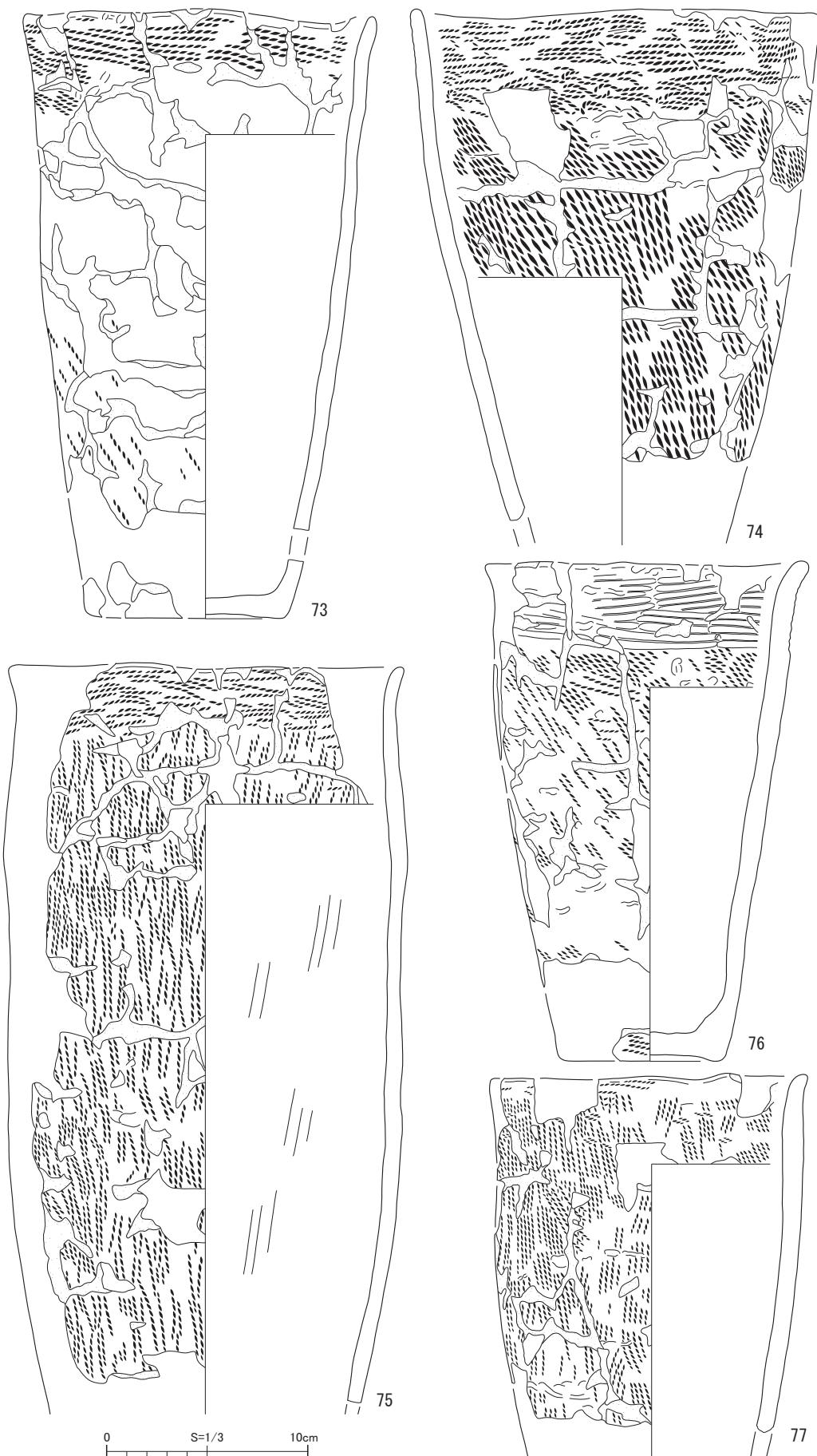
図VI-284 C3 地区包含層出土土器 (12)



図VI-285 C3地区包含層出土土器 (13)



図VI-286 C3 地区包含層出土土器 (14)



図VI-287 C3地区包含層出土土器 (15)



図VI-288 C3 地区包含層出土土器 (16)



図VI-289 C3地区包含層出土土器(17)